

王昭君

白居易

漢使卻迴憑心語寄

黃金何日蛾眉賸

君王若妾顏色問

道莫宮裏時如

【作者】白樂天(七七二〜八四六年)(中唐時代)に河南省新鄭県に生まれる。名は居易・字は樂天、醉吟先生・香山居士は号である。代々地方官僚  
で家は貧しかった。日夜學問にはげみ十六歳で詩を作つて、詩壇の長に認められた。王昭君の詩は十七歳の時の作。二十八歳の時地方試験に  
及第、都長安に出る。翌年進士に、更に上級試験を二つ突破、三十五歳で高級官僚コースを歩む。

【語釈】\*漢使…漢からの使者。 \*卻回…還る。 \*憑…たのむ。依頼する。 \*蛾眉…美人。王昭君のこと。 \*賸…あがなう。買う。  
\*不如…しからず。およばない。 \*別情…別れの悲しみ。

【詩の鑑賞】当時、元帝は、宮廷画家に、宮女たちの肖像画を描かせ、その中から気に入った者を寵愛した。そこで、宮女たちはこぞつて賄賂を贈り、  
美しく描かせようとした。だが王昭君だけは贈らなかつた。そのために、王昭君は絶世の美人でありながら醜女に描かれ、元帝の寵愛を受  
けることなく、政略結婚の犠牲として匈奴の王に嫁がされた。別れのあいさつに進み出た王昭君を見て、元帝は大いに悔やみ、その後事情  
を調べて画家を殺したという。この詩は、『王昭君』(白居易)は、匈奴に嫁がされた、王昭君の悲しみをうたった作である。